

# 野研びより

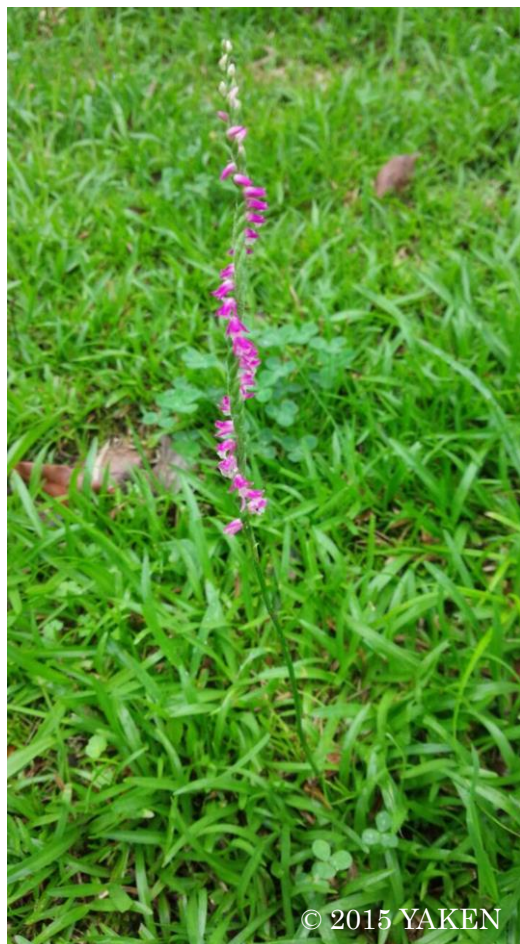
植物編 3号

野外生物生態調査研究部 植物班

2015年7月

[ラン科ネジバナ属]

**ネジバナ** 〈振花/振摺〉



ネジバナ (2015年6月22日 日本花  
キャンパス体育館付近で撮影)

学名 : *Spiranthes sinensis*

〈花期〉5～8月

〈分布〉日本全土

日当たりのいい草地に生える多年草で、希少種が多いラン科には珍しくあちこちで見られる<sup>1)</sup>。宮崎大学構内でも多く見られる。

名前の由来は花序がねじれていることによる<sup>2)</sup>。別名は振摺(モジズリ)。振摺は振れ模様に染めた絹織物の一種であり、ねじれた花序をこれに例えた。

一般にラン科の植物は菌類の力を借りて発芽し、その菌類を根の中に取り込んで菌根をつくり、菌類がつくる栄養分を吸収して成長する<sup>3)</sup>。ネジバナも例外ではなく、根には太い菌根が形成される。この菌根形成に関わる菌類が芝生に多く存在しているため、ネジバナも芝生に多く生育している。逆にこの共生関係にある菌がうまく増えない環境では、ネジバナもうまく成長できない。



根側からみて、右巻き(右側花序)  
と左巻き(左側花序)。

ネジバナの花序のねじれは一定ではなく、右巻き、左巻き、ねじれずに直線に並んだもの、さらには途中で巻く方向が変化している個体も存在する<sup>2)</sup>。地域ごとに差があるなど諸説あるが、宮崎大学内における部員の調査によると右巻きと左巻きの茎数が丁度1：1であった。

ネジバナの巻を上側(茎頂)から見るか下側(根)から見るか悩みどころであるが、多くの図鑑ではつる性の植物は根から見て右巻き左巻きを判断するようである<sup>4)</sup>。それに倣うならば、根から見て時計回りならば右巻きと見ればよいと思われる。また、巻きの方向が環境によるものか遺伝的なものかは分かっていないようである。



ネジバナの根(2015 年 6 月木  
花キャンパス教育文化学部棟付  
近で採取したもの)



(a) イネの根の様子<sup>6)</sup>

長く細い根を持つ。多くの植物で見られる。



(b) サンゴネランの菌根の様子<sup>5)</sup>

根は coral root と呼ばれ名の通り珊瑚状であり、太く短い。

※花序…花の並びのこと。

※菌根…陸上植物の根に真菌類が侵入・定着して形成される構造<sup>4)</sup>。

※coral root…珊瑚状の根

### 引用文献

- 1) 「三重県立博物館/ネジバナ」 [<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/haku/osusume/181-nejibana.htm>] (2015 年 6 月 28 日)
- 2) 林弥栄・平野隆久(2002)『山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花』p396, 山と溪谷社
- 3) 「日本植物生理学会みんなのひろば」  
[[http://jspp.org/hiroba/q\\_and\\_a/detail.html?id=1444](http://jspp.org/hiroba/q_and_a/detail.html?id=1444)] (2015 年 7 月 1 日)
- 4) 山口昭男・巖佐庸・倉谷滋・斎藤成也・塚谷裕一(2013)『生物学辞典 第5版』p333, 岩波書店
- 5) Smith, S.E. & Read, D.J. (2008)『MYCORRHIZAL SYMBIOSIS 3rd Ed.』pp458-506, ACADEMIC PRESS
- 6) 「鋤人の野良日記 ～植物栽培で大地に緑を～」 [<http://astgreen.jugem.jp/?eid=318>] (2015 年 7 月 22 日)